

ご挨拶

天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。 伝道の書3章1節

今の季節は、この御言（みことば）が心に深く響く時期だと感じています。特に被災地に立つと、その思いが一層強くなります。神様が定めた時をしっかりと見極めることが大切であり、私たちがこの瞬間をどのように受け止め、行動し続けていくかが問われているのだと思います。

今年も残りわずかとなりました。この1年間、皆様に祈り続けていただき、また多大なご支援を賜りましたことに心より感謝申し上げます。能登震災をきっかけに、私たちは南三陸町の町民の皆様の希望を胸に、被災地への炊き出しを兼ねた慰問活動を行いました。この活動を通じて、地域の方々に温かい支援を届けることができました。また、その後、町民の皆様に活動の報告をするための茶話会を開催し、共に思いを共有する貴重な時間を持つことができました。

さらに、今年の夏からは南三陸町旭ヶ丘の閑静な住宅地に「ジュビリーの家」と名づけお借りし、コミュニティの場として活動を始めました。茶話会や音楽イベントなどに活用し、今後は住民の皆様にも活用できるよう検討を進めています。これからも皆様と共に温かな絆を育んでいければと願っています。

今年度も残りわずかとなりました。この一年、皆様からの温かいご支援とご協力に心より感謝申し上げます。私たちは、共に歩む中で多くの思い出を作り、さまざまな宣証に取り組む挑戦を乗り越えてきました。

特に、被災地への支援活動や、地域の皆様との交流を通じて、互いに支え合う大切さを改めて感じることができました。これからも、皆様と共に成長し、より良い未来を築いていくために努力してまいります。

来年度も、どうぞよろしく願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸を心より私たちの主イエス様にお祈りいたします。

敬具

中澤竜生

宣証“地域支援ネット架け橋”

2024年12月8日





十月末、南三陸町で「小さな社協のこたわりフォーラム」が開催されました。このイベントは、社協からの参加呼びかけにより、多くの社協が全国各地から集まりました。その中には、能登地方の珠洲市社協からご夫婦で参加された方もいらっしゃいました。このように、南三陸町の取り組みが手本として参考にされ、参加者の皆さんからは今後へのさらなる期待が寄せられている印象を受けました。

フォーラムでは、震災直後から地域福祉研究所の本間照雄氏が提言した、地域福祉への移行を三段階の「しえん」を通じて進める重要性が強調されました。一時避難所、仮設住宅、災害公営住宅を経て、最終的には地域福祉へとつなげ、住民が普通の暮らしに戻ることを目指します。このプロセスの鍵となるのは、生活支援員の選定と派遣です。

南三陸町では、震災で大きな被害を受け、多くの住民が一時的な避難を余儀なくされました。そこで、町として避難した住民の安否確認や情報提供を行うため、生活支援員を住民被災者から募集しました。初めは約二百名

が集まり、必要なケアを行うための訓練や報告活動が開始されました。

訪問活動を通じて町の取り組みや現状をお伝えし、町長のビデオを見せることで孤立感を軽減するよう努めました。このような活動により、町民に行き届いたケアが実現したのは、生活支援員の存在があったからです。その活動は仮設住宅でも徹底され、災害公営住宅に移行しても続きましたが、生活支援員の数は二百名から二十名に減少しました。それでも、災害公営住宅では六十世帯以上が住む地域に対して、二名の生活支援員が集会所の一室を待機所として派遣され、その周辺を見守り続けています。



しかし、その二十名の派遣が来年で打ち切られることとなりました。その理由は、国からの予算がつかないためです。また、町としても過疎化が進む中で、収入やその配分が難しく、現状を見



過ごさざるを得ない状況があります。それでも、町として何らかの方法を考える必要があると感じ、社協は「その後」について町に検討を促すために今回のイベントを開催しました。

フォーラムでは、社協職員や生活支援員数名がパネラーとして参加し、これまでの活動報告を行いました。災害復興住宅地に設営された集会所や社協の本拠点である「結の里」の設計において、生活支援員と住民が接点を築きやすく、利用しやすいように細部にわたってこだわりが見られました。しかし、生活支援員がいなくなることで「欠ける」部分が生じることから、パネラーは町に意見を求める場面もありましたが、返答はありませんでした。結局、このイベントでは次のステップが示されることはなく、住民との接点を持つ支援員は来年度から活動を終了します。今後は社協と外部支援者との連携、そして町民の代表（自治会長や民生員など）がその役割を担うことになるでしょう。そこで「架け橋」としてどのように関わりを持つかが問われています。

生活支援員さん、民生員さんとの懇談

実際に、ある生活支援員からお話を伺ったところ、毎日行われてきた茶話会や地域のための集会所を活用した花植えなどの活動があり、民生員も同席しながら地域に住む世帯の課題、特に一人世帯の実情について、その他社会問題等に関して個人情報が漏れないよう配慮しながら話されました。これらが一つの重要な課題であると感じました。



結局、「架

け橋」の役割は慈善事業として続いていくのですが、その活動には今まで通り「福音」も絡ませていきたいと考えています。しかし、宗教活動と判断されると活動に弊害

と活動に弊害と表現には繊細さが求められます。それでも、支援に関しては大胆に行動しなければなりません。つま

り、宣証とは相手が気づき、質問をしてくるような関係づくりと、福音を自発的に理解するための会話と行動が重要であるということ。これまででもそのように活動してきまし

たし、これからもその方針を世代に渡って続けていきます。

能登ヘルプセミナーにて

先日、能登ヘルプセミナーにてお話をさせて頂いた機会をいただきました。「支援活動を先行する者としての経験を共有してほしい」というご依頼を受け、特に「宣教と宣証」をテーマにお話をしました。

今回のセミナー参加者の多くがクリスチャンであったため、宣教の本質やその実践方法について触れました。宣教とは、福音を直接的に伝えることを基盤とし、その手法は多岐にわたります。学校など教育の場を通じて行う場合もあれば、メディアや紙媒体、教会での伝道会を通じて行う場合もあります。一方、伝道は個人との接点の有無にかかわらず、より直球で福音を伝えることが多いと言えます。

この文脈の中で、私は次のような問いを提起しました。
・普段用いている伝達方法を、緊急支援時にそのまま活用することは適切なのか。
・地域文化や風習が深く根付いている地方社会で、その方法は通用するのか。

講演終了後、「能登のような地方に教会を建てることをどう考えますか？」というご質問をいただきました。これは、被災地での活動が進む中で、クリスチャンが拠点として教

会を建てる場合の可能性についての問いでした。

私はこの質問に対し、地方特有のいくつかの課題についてお答えしました。教会を建設するにあたり、建物の維持費や献金の確保、信徒数の少なさ、牧師の生活費といった現実的な問題が大きな壁となります。また、宗教施設が地域に建つことで、住民との間に心理的な距離が生じ、結果的に福音を伝えることが難しくなる可能性も考えられます。こうした課題を踏まえつつ、慎重に検討する必要があります。

そのため、地方や被災地においては、建物としての教会を設置するのではなく、「人の教会共同体」を地域ごとに形成することが有効ではないかと提案しました。具体的には、各家庭や地域住民の住宅を集いの場とし、そこを拠点にした活動が適していると考えます。また、福音は単なる言葉ではなく、「良い働き」として地域に提供されるべきものです。その結果、福音に触れた個人や住民が喜びを感じ、地域全体が祝福されるような形を目指しています。また地域が建物を必要とした場合のみ教会建設を行うというのが望ましいと考えるのです。

このような考えをもとに、これからも地方での支援活動や福音伝達の在り方を模索していきたいと思います。

宣証／地域支援ネットワーク架け橋をご支援下さる皆様へ

献金者ご芳名（敬称略、順不同）

- ・基督聖協団練馬教会・基督聖協団三河島青梅教会・日本イエスキリスト教団京都聖徒教会・佐藤多津子
- ・岩崎豊稔、ひとみ・船堀グレースチャペル・相模原・教会ネットワーク災害支援プロジェクト
- ・萱島キリスト教会、魚住キリスト教会・基督聖協団八王子教会・基督聖協団上田教会・小笠原孝
- ・金原雅子・基督聖協団目黒教会・佐藤由紀夫・特定非営利活動法人B.F.P.Japan・基督聖協団仙台宣教センター

2023年8月16日～2024年11月25日

献金収入：384,947円

前回繰越金：99,292円

特別指定献金繰越費：95,019円

車両費・ガソリン費・保険：249,300円、事務費・通信費・DM費：73,200円、啓蒙活動費：47,000円、
慶弔費：6,000円、傾聴費：25,000円、ネットワーク費：10,000円、雑費：37,000円、スタッフ費：60,000円、
年中行事支援費：50,000円（特別指定献金より）、能登活動：20,000円（指定献金より）

活動費合計：577,500円

次回活動繰越金：1,758円

特別指定献金繰越費：45,019円

※宣証“地域支援ネット架け橋”の活動を家族、友人等にご紹介頂けると幸いです。
皆様の変わらぬご支援に心からお礼を申し上げます。

スタッフ一同

活動継続のために寄付をお願いします

■銀行振込

銀行名 七十七銀行 宮城町支店
口座番号 普通 5497795
名義 キリスト聖協団西仙台教会かけはし会計 中澤佳子

■郵便振替（ゆうちょ）

口座名義 地域支援ネット架け橋（チイキシエンネットカケハシ）
店名 二二九店（ニニキュウ）（229）
口座の記号-番号 02290-3-141031
当座 0141031



PayPayアプリの[送る]から電話番号で送金ができます。

[09066280628]

名前の頭が[mdw***]のアカウントになります。
※メッセージに「お名前」「領収書の有無」を入力をお願いいたします。

【事務局】地域支援ネット架け橋

【所在と発行元】宮城県仙台市青葉区愛子東3丁目14-22

【電話】090-6628-0628 【メール】kakehashi.net@gmail.com

【スタッフ】現地活動 中澤竜生、中澤栄子
事務局 中澤佳子、中澤義道、中澤愛美

宣証“地域支援ネット架け橋”のホームページ
<https://www.kakehashi2013.com>



PayPalを利用した
クレジットカードでの応援も可能です。



送金先アドレス
yoshiko.n36@gmail.com